

恵比寿さまが来た！

2016. 02. 24

2016年 2月24日いつも出入りしている古物商の彼から電話『鉄と違って銅の古い恵比寿さん、興味がありますか？』半時間ほどして、黒っぽい20cmほどの高さで2kgの銅像を持って来社。『旧家の蔵で見つけたものだが、顔が綺麗なので買って来た。』持って帰って見て見ると『光雲』と陽鑄されている、もしかして高村光雲かな？銅製の像だから磁石につかないよな。彼はそんな話をしている。恵比寿様を手にとってじっくりと見ると、彼の言ったように、豊かで綺麗な顔です。気に入ったので買うことにしました。

銅像の裏には博文館創業三十周年記念と鑄出されています。この会社の社名は伊藤博文にちなむものです、明治20年（1887年）東京で創業した出版社で、富国強兵の時代風潮に乗り、数々の国粹主義的な雑誌を創刊すると共に、取次会社・印刷所・広告会社・洋紙会社などの関連企業を次々と創業し、日本最大の出版社として隆盛を誇りました。その30周年記念はたぶん大正 6年（1917年）、第一次世界大戦のさなかに作られた銅像です。作者は高村光雲（たかむら こううん）、日本を代表する仏師で東京美術学校に勤務され、代表作には『老猿』明治36年（1893年）、西郷隆盛像（上野恩賜公園）明治30年（1897年）、楠公像（皇居前広場）明治30年（1897年）などがあります。高村光太郎氏はご子息で有名な詩人・彫刻家です。

この恵比寿さん、左足を覆おう衣装の襷（ひだ）に少し赤みのかかった部分がある。これは鉄サビのようだと思い磁石を近づけるとかなり反応する。ぶら下がるほどではありません。彼に磁石につくよと云うと、自分でも確かめていました。『寛永通寶』も磁石につくものがあった。大きな梵鐘、亀山本徳寺にあったもの永禄 9年（1566年）、今回は恵比寿様まで磁石につきました。

『鉄のふしぎ博物館』にまた、面白い展示物が一つ増えました。



『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかわりますよ。
ぜひお越しください。

